

2022年度 環境経営レポート

(対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日)



発行日：2023年5月1日

株式会社協栄電興

目 次

1. 会社の概要	・・・	P 3
2. 主な環境負荷の実績	・・・	P 4
3. 対象範囲（認証・登録範囲（予定））	・・・	P 4
4. 推進組織図及び役割・責任・権限	・・・	P 4
5. 環境経営方針	・・・	P 5
6. 環境経営目標	・・・	P 6
7. 環境経営計画	・・・	P 6
8. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果と その評価、並びに次年度の環境経営計画	・・・	P 7
9. 活動報告	・・・	P 9
10. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟などの有無	・・・	P 10
11. 緊急事態対応の試行・訓練	・・・	P 11
12. 代表者による全体の評価と見直し・指示	・・・	P 12

1. 会社の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

株式会社 協栄電興
代表取締役 石田 直大

(2) 所在地・メールアドレス

本 社 兵庫県丹波篠山市池上266番地
Eメール kyouei.koujibu@hera.eonet.ne.jp

(3) 設立年月日 昭和47年12月23日

(4) 資本金 2千万円

(5) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 近藤 景子
環境管理担当者 近藤 景子
連絡先 TEL : 079-552-5048
FAX : 079-552-0662

(6) 事業の概要

電気工事業、消防設備工事業、管工事業、土木工事業、水道施設工事業

(7) 建設業許可 兵庫県知事

電気工事業 特3 第751133
消防・管・土木・水道施設工事業 般3 第751133

(8) 事業規模

年間売上高 第50期 2億 6千万円 (2022/4月 ~2023/3月)

	本社
総従業員 2023.5.1現在	14人
延べ床面積	200m ²
敷地面積	900m ²

(9) 建設現場等の概要 (2022/4 ~2023/3)

元請工事 441件
下請工事 192件

(10) 会計年度 4月1日~翌年3月31日

2. 主な環境負荷の実績

項 目	単位	全社排出量		
		2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	19,810	17,709	19,710
廃棄物排出量	トン	3.46	11.09	6.31
一般廃棄物	トン	0.96	0.69	0.52
産業廃棄物	トン	2.5	10.4	5.79
水使用量	m ³	76	59	79

使用した電力の二酸化炭素排出係数：0.334 kg-CO₂/kWh（関西電力、2018年度の調整後排出係数）

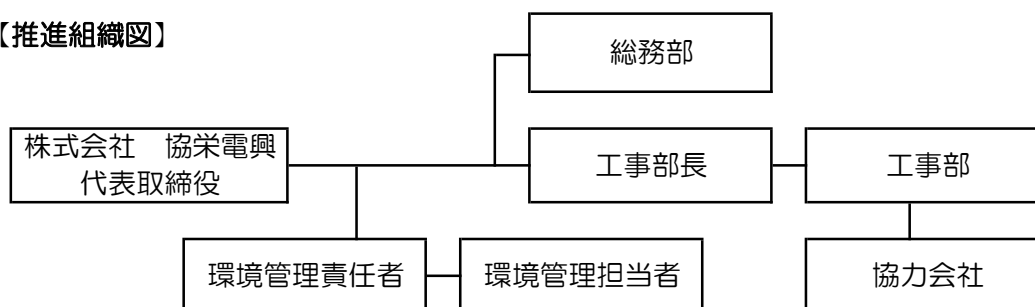
※ 二酸化炭素総排出量には灯油分を含む（総合計である）

3. 認証・登録範囲

事業活動：電気工事業、消防設備工事業、管工事業、土木工事業、水道施設工事業
対象事業所：本社

4. 推進組織図及び役割・責任・権限

【推進組織図】



【役割・責任・権限】

	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代表者（社長）	代表者による全体の評価と見直しを実施する 環境経営方針を策定し、従業員に周知させる 環境経営目標、環境経営レポートを確認・承認する エコアクション21全体の取組状況に関し評価、見直し・指示を実施する
環境管理責任者	エコアクション21建設業向けガイドラインの要求事項を満たす環境 経営システムを構築し、実行し、環境面の実績を向上させる 上記の結果を社長に報告する EA21文書類の承認をする 環境経営レポートを作成する
環境管理担当者	EA21環境経営システムを構築し、文書化し、実行を推進する 環境への負荷の自己チェックを実施する 環境への取組の自己チェックを実施する 環境管理責任者を補佐し、問題点の審議と解決策を立案する
工事部長及び 全従業員	自部門の環境経営目標、環境活動計画の達成と実績の把握を行う 環境経営方針、自部門の環境経営目標、環境活動計画を部門全員に周知する 自部門に関連する環境関連法規制等を順守する 自部門の教育・訓練を実施する 社内外の環境情報の収集と伝達をする 自部門の緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する

5. 環境経営方針

【基本理念】

株式会社協栄電興は、経営理念のひとつである“新たな価値を創造し日本社会の発展に貢献する”をモットーに、地球環境問題と事業の発展のため、日々の活動に取り組みます。

【行動方針】

1. 株式会社協栄電興は下記のとおり、事業活動に伴う環境負荷の低減、並びに工事施工時における環境配慮に努めます。
 - ① 電力及び燃料の使用による二酸化炭素排出量の削減
 - ・ 節電、燃費効率、エコドライブの推進
 - ② 廃棄物排出量の削減及びリサイクル活動の活性化
 - ・ 再資源化の推進、リサイクル率の向上、分別の徹底、コピー用紙節約
 - ③ 環境に配慮した工事の推進
 - ・ 技術商品の利用や提案
 - ④ 水使用量の削減
 - ・ 上水道の節減
2. 環境関連法規の遵守
 - ・ 最新の法規制、基準等を理解し遵守します。
3. 環境経営を維持し継続的改善に努めます。
4. 本方針を全従業員及び協力会社に様々な機会を通じて環境保全教育を実施し、環境経営レポートを通じて、地域社会に公表します。

※重点項目は1項に示す

制定日：2021年5月31日

株式会社 協栄電興
代表取締役 石田 直大

6. 環境経営目標

No.	環境経営目標	基準年度 2020年度実績		2022年度目標		2023年度目標		2024年度目標	
1	電力使用量の削減 (本社) ※1 (排出係数) (CO ₂ 排出量削減) 0.334	11,530	kWh	-2%	11,299	-3%	11,184	-4%	11,069
		3,851	kg-CO ₂		3,774		3,735		3,697
2	自動車燃料使用量の削減 ガソリン (排出係数) (CO ₂ 排出量削減) 2.32	4,437	ℓ	-2%	4,348	-3%	4,304	-4%	4,260
		10,294	kg-CO ₂		10,088		9,985		9,882
3	重機燃料使用量の削減 軽油 (排出係数) (CO ₂ 排出量削減) 2.58	1,876	ℓ	-2%	1,838	-3%	1,820	-4%	1,801
		4,840	kg-CO ₂		4,743		4,695		4,646
4	二酸化炭素排出量の削減 ※2	18,985	kg-CO ₂	-2%	18,605	-3%	18,415	-4%	18,226
5	産業廃棄物の削減 (リサイクル率向上)	0 ※3	%	+2 (%)	32	+3 (%)	33	+4 (%)	34
6	一般廃棄物排出量の削減	960	kg	-4%	922	-5%	912	-6%	902
7	水使用量の削減	76	m ³	-4%	73	-5%	72	-6%	71
8	問題発生を未然に抑える 取組の推進 ※4	100	%	評価ポイント 91ポイント(%) 以上		評価ポイント 92ポイント(%) 以上		評価ポイント 93ポイント(%) 以上	

(注) 化学物質は使用していないため、目標に設定していない。

※1 電力の二酸化炭素排出係数：0.334 kg-CO₂/kWh（関西電力、2018年度の調整後排出係数）

※2 灯油分を含んでいない。

※3 産業廃棄物のリサイクル率の向上；再資源化量(0t)÷総排出量(2.5t)=0%

（目標値は基準年度を30%と仮定し、リサイクル率の増加を目指した）

※4 請け負った工事ごとに、現場代理人が「騒音・振動」、「水質汚濁」、「大気汚染」、「建設廃棄物」

「工事資材」に関する取組を項目ごとに点数評価し、下記の計算式でポイントを算出する。

ポイント（%）= 100×工事数×評価点数（実績）/工事数×評価点数

7. 環境経営計画

No.	環境経営目標	環境経営目標の達成手段	スケジュール					実施 体制 (責任者)
			全 期	春 期	夏 期	秋 期	冬 期	
1	電力使用量の削減 (CO ₂ 排出量削減)	1.空調機の温度設定（夏期：28℃、冬期：20℃）			○		○	代表取締役 社長
		2.昼休みの消灯 3.不要照明の消灯	○					
		4.離席時のパソコン電源OFF	○					

2	自動車燃料使用量の削減 ガソリン (CO ₂ 排出量削減)	1.アイドリングストップの徹底 2.急加速、急発進の防止	○					取締役	
	3.法定速度の順守 4.タイヤ空気圧の定期的点検	○							
3	重機燃料使用量の削減 軽油 (CO ₂ 排出量削減)	1.アイドリングストップの徹底 2.急加速、急発進の防止	○					代表取締役 社長	
		3.法定速度の順守 (ダンプ、トラック)	○						
		4.相乗りの励行 (ダンプ、トラック)	○						
		5.タイヤ空気圧の定期的点検	○						
		6.過度な負荷をかけないアクセルワーク (重機)	○						
4	二酸化炭素排出量 の削減	・NO.1～3 に従う							
5	産業廃棄物の削減 (リサイクル率向上)	1.建設廃棄物の分別徹底	○					代表取締役 社長	
		2.不法投棄、不法処分リスクの無い処理業者への委託	○						
		3.保管基準の順守	○						
6	一般廃棄物排出量 の削減	1.リサイクルを意識した一般ごみの分別	○					取締役	
		2.コピー紙の裏紙使用	○						
		3.詰め替え容器のある商品の選択	○						
7	水使用量の削減	1.水の流しっぱなしの防止	○					取締役	
		2.節水ステッカー貼付による節水意識の向上	○						
8	問題発生を未然に抑える 取組の推進	・請け負った工事ごとに、「騒音・振動」、「水質汚濁」、「大気汚染」、「建設廃棄物」、「工事資材」について、適切な取組を実施（低騒音型重機使用、沈砂池の設置、排ガス第3次規制対応車使用、特定建設資材の100%リサイクルなど）	○					代表取締役 社長	

8. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに次年度の環境経営計画

No.	環境経営目標 (環境経営方針との関連)	環境経営計画に基づき 実施した取組内容	評価 ※4	環境経営計画の実績 (2022年4月～2023年3月)				次年度の 環境経営計画
1	電力使用量の削減 (本社) (CO ₂ 排出量削減)	・昼休みの消灯	△	単位	kWh	・空調機の使用方法を見直すことで削減に繋がった		
		・空調設定温度の励行	◎	目標	11,299			
		・部分消灯及びこまめな消灯	○	実績	10,006			
		・離席時のパソコンOFF	△	達成率	113 %			
				達成状況 ※5	○			
2	自動車燃料使用量の削減 (ガソリン) (CO ₂ 排出量削減)	・急発進の防止	○	単位	ℓ	・現場までの相乗りなど、削減に向けての意識が広がった		
		・アイドリングストップ	○	目標	4,348			
		・相乗りの徹底	○	実績	4,027			
		・適正空気圧の確保	△	達成率	108 %			
				達成状況	○			

3	重機燃料 使用量の削減 （軽油） （CO ₂ 排出量 削減）	・アイドリングストップ ・作業内容に応じたアクセ ルワークの実施	◎ ○	単位 目標 実績 達成率 達成状況	ℓ 1,838 2,450 75 % ×	・遠方での 工事が多く 目標達成に は至らな かった	エコ運転 定期的な整備 燃費管理は継続
4	二酸化炭素 排出量の削減 ※1	No.1～No.3 に記載		単位 目標 実績 達成率 達成状況	kg-CO ₂ 18,605 19,006 98 % ×	No.1～ No.3 に記 載	No.1～No.3 に 記載
5	産業廃棄物 排出量の削減 ※2 （リサイクル率）	・建設現場での分別強化 ・金属くずの分別ボックス 新設	○ ○	単位 目標 実績 達成率 達成状況	% 32 32.9 103 % ○	・リサイク ルの意識が 定着した	リサイクルと分 別を徹底 する
6	一般廃棄物 排出量の削減	・コピー用紙の裏紙使用 ・一般廃棄物分別の徹底に よる再資源化の推進	◎ ○	単位 目標 実績 達成率 達成状況	kg 922 517 178 % ○	・コピー用 紙の裏紙使 用が徹底し た	分別排出徹底
7	水使用量の削減	・水の流しっぱなしの防止 ・節水ステッカー貼付 ・節水意識の向上	◎ ◎ ○	単位 目標 実績 達成率 達成状況	m ³ 73 79 92 % ×	・漏水が あったため 未達成と なった	節水を継続
8	問題発生を未然に 抑える取組の推進 ※3	・工事における下記の環境 配慮活動の実施 (1)騒音・振動の低減 (2)水質汚濁の防止 (3)大気汚染の防止 (4)建設廃棄物の リサイクル (5)工事資材の整頓	◎ ◎ ◎ ○ ○	単位 目標 実績 達成率 達成状況	% 91 93.6 103 % ○	（実施した工 事の環境配 慮）低騒音型 重機使用、沈 砂池の設置、 排ガス第3次 規制対応車使 用、特定建設 資材の100% リサイクルな ど	・工事における 環境配慮活動 を更に徹底する
実施体制		・実施体制（環境管理責任者、環境委員会並びに各目標ごとに設定された実施責任者）は有効に機能しており、これを継続する					

化学物質の使用はない。

※1 灯油分を含んでいない。

※2 産業廃棄物のリサイクル率の向上(実績)；再資源化量(1.9t)÷総排出量(5.78t)=32.9%

※3 問題発生を未然に抑える取組；ポイント(%)＝100×100点(実績)/100点(満点)＝100%

※4 評価：◎よくできた ○ほぼできた △あまりできなかった ×全くできなかった

※5 達成状況：○目標達成 ×目標未達成

9. 活動報告

▽ 節水・節電等の啓発活動の一つとして社内にポスター等を掲示しました



・トイレ、キッチンに節水ステッカーを貼ることで出しっぱなしがなくなりました。



・従業員以外が利用される時も分別していただけるようになりました。



・事務所を離れる際もこまめに消すように意識づける啓発の一つになっています

10. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに 違反、訴訟などの有無

(1) 当社に適用される環境関連法規等の遵守状況

下記の通り環境関連法規及び条例等を事業所、建設現場ともに遵守しており、違反はありません。また関係当局より違反等の指摘も過去5年間ありません。

遵守評価日：2023年5月1日

適用される法令等		主な遵守すべき内容 ※	遵守状況
1	廃棄物処理法	処理業者との適正な契約並びに業者の許可証有効期限の確認	遵守
		マニフェスト伝票の管理（法定記載事項、照合確認、5年間保存）	遵守
		廃棄物置場の表示と保管基準の遵守	遵守
		マニフェスト交付状況の知事への報告（毎年6月30日までに）	遵守
2	建設リサイクル法	特定建設資材の再資源化（コンクリート、廃木材、アスファルト等）	遵守
		元請業者の発注者への再資源化に関する書面報告、並びに再資源化実施状況の記録作成と保存	遵守
		都道府県知事への事前届出の提出（工事着手の7日前まで）	遵守
3	騒音規制法	特定建設作業の事前届出：指定地域内、工事開始7日以前	遵守
		特定建設作業は敷地境界線において、85dB(A)を超えないこと	遵守
4	振動規制法	特定建設作業の事前届出：指定地域内、工事開始7日以前	遵守
		特定建設作業は敷地境界線において、75dB(A)を超えないこと	遵守
5	消防法	防火管理者の専任（工場・倉庫・事務所は50人以上）及び所轄消防署長への届出	遵守
		消火設備の定期点検、消火器の有効期限少量危険物の届出、点検	遵守
6	フロン排出抑制法	空調機の簡易点検（3か月以内ごと）及び廃棄後3年間までの記録保存	遵守
		・廃棄時におけるフロン類の回収依頼書又は委託確認書の交付 ・回収依頼書又は委託確認書並びに充填回収業者が交付した引取証明書の3年間保存	遵守
7	自治体との災害時 応援協定	災害発生時に応援派遣する	遵守

※ 紙面の都合のため、主要な遵守すべき内容を抜粋し、簡略的に記載しており、詳細は「環境法規制等一覧表兼順守評価記録」で管理している

(2) 環境関連訴訟等の有無

環境関連訴訟等は過去5年間、1件も発生しておりません。

11. 緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定 : 火災の発生	
■実施日 : 令和4年7月8日	■実施場所 : 会社内
■参加者 : 石田直大・社員一同	■実施内容 : 通報訓練、消火訓練、避難訓練
■手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし	
■訓練の目的 消火器の設置場所等の確認及び使用方法の確認をすることにより 初期消火の重要性を再度認識する。	
■訓練方法 ・消火器の設置場所の確認 ・消火器の使用方法の確認	
■訓練等の結果、課題と反省点、効果の検証 ・消火器の設置場所を知らない社員もいたので、今回の訓練で周知できた。 ・使用方法を再度確認することで火災発生時に備えられるように訓練できた。 ・避難経路の再確認ができた。 (避難経路の動線を整理整頓する必要があることが判明。) ↓ (訓練後に整頓・清掃を行った)	

緊急事態の想定 : 油流出事故の発生	
■実施日 : 令和4年7月8日	■実施場所 : 会社内
■参加者 : 石田直大・工事部社員	■実施内容 : 通報訓練 避難訓練
■手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし	
■訓練の目的 ・給油時の油の流出を想定することで、事故発生時に素早く対応することを目的とする。	
■訓練方法 ・訓練を実施	
■訓練等の結果、課題と反省点、効果の検証 ・油の流出時に使用する油吸着ソートの使い方を周知することができた。 ・避難経路の再確認ができた。 (避難経路の動線を整理整頓する必要があることが判明。) ↓ (訓練後に整頓・清掃を行った)	

12. 代表者による全体の評価と見直し・指示

社名：株式会社協栄電興

見直し年月日：2023年 5月 1日

代表取締役：石田 直太

見直しに必要な事項		環境管理責任者の報告	代表者による評価	変更の 必要性
環境経営方針	環境経営方針に示された環境への取組の基本的方向は現在も適切か	環境経営方針は適切である	環境経営方針は変更しない	☐ 有り ☒ 無し
環境経営目標及び環境経営計画	環境経営目標・計画の達成状況は妥当か ・課題とチャンス、 ・二酸化炭素排出量削減、 ・廃棄物排出量削減、 ・水使用量削減、 ・製品・サービスの環境性能の向上	環境経営目標・計画は適切である。	環境経営目標・計画は変更しない	☐ 有り ☒ 無し
その他の環境経営システム	・環境負荷の大きな変化 ・法規制等の遵守状況 ・教育・訓練の実施 ・外部からの苦情や要望 ・実施及び運用の適切性 ・緊急事態への準備状況 ・取組の確認並びに是正処置の状況 ・環境経営レポートの作成と公表、活用状況	適切である。	変更しない	☐ 有り ☒ 無し
実施体制	実施体制は効果的であり、変更の必要性はないか	実施体制は効果的である	実施体制は継続する	☐ 有り ☒ 無し
前回の代表者指示事項のフォローアップ	該当なし			
代表者の指示事項	事業活動はもちろんのこと、日常生活においても一人一人が環境問題に関心を持ち環境活動に取り組んでいくこと。			
代表者の総合評価※	受注産業のため情勢に応じて大きく変化し、工事の規模や内容が数値結果に影響しますが、全社員が率先して目標達成に向けて取り組む意識が現れてきています。今年度目標が達成できていない項目のうち、特に燃料に関してはエコ運転の推進・ルートの選定・乗り合わせ等を徹底していくことによりCO2排出量の削減に繋げていきたいと思っております。			

※次年度以降への展開を重点に記載する